

新しい職員紹介

小阪 雅生さん(生活介護 生活支援員)

3月1日から野の花の皆さんと御一緒に、働くことになりました、小阪 雅生です。今までパン屋さんで働いていました。今までいろんなパンをお休みの時に食べ歩いて色々な経験ができました。これから新しく、野の花で働くこととなりますが、いろいろ解らない事、至らないことがありますよろしくお願いします。



大西 英太さん(継続B型 生活支援員)



はじめまして、大西英太です。趣味はMTB（マウンテンバイク）のメンテナンスやサイクリングです。得意な事は料理を作る事です。

これまでに、自動車関係の仕事や、老人ホームでの介護の仕事をしてきました。経験したことを最大限に活かして頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

岡本 久二代さん(継続B型 生活支援員)

はじめまして。4月からB型のみなさんと一緒に働かせていただくことになりました、岡本久二代と申します。これまでは教員やこどもの福祉を仕事にしてきましたので、こちらではすべてがはじめてで、何もわかりません。みなさんにいろいろと教えていただけたら助かります。休みの日には岩盤浴をしたり、おいしいものを食べたり、愛犬のター君と遊んだりして過ごしています。アラフォーで、フレッシュさにはやや欠けますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



パートさん紹介



井上 洋子さん
パンを作っています！！

大林 益代さん
パンを作っています！！



船橋 美紀さん
パンの仕分けとB型で作業をしています！！



野田 登代子さん
クッキー作りやB型で作業をしています！！



大西 由美子さん
相談支援・事務をしています！！

細川 彰子さん
看護師をしています！！



柿本 由香里さん
店でパンを売っています！！



樋笠 麻由美さん
生活介護で生活支援員をしています！！



山口 美穂さん
パン、クッキーを作っています！！



山野 亜紀さん
みんなのお弁当をつくっています！！

野の花だより

～新年度を迎えて～

理事長 大内邦子

新しい年度を迎えて、皆様には益々御健勝の事とお慶び申し上げます。日頃は、社会福祉法人いいのやま福祉会 野の花に一方ならぬお力添えをいただき、誠に有り難く感謝申し上げます。

さて、昨年開所しました「野の花 生活介護」も、利用者さん 一人ひとりを大切にした支援を心がけて一年が過ぎました。新しい取り組みである、フロイデ（ミュージックセラピールーム）を活用した音楽療法も、皆様から喜ばしい お言葉を沢山頂き、関わって下さっている先生方も、大きな手ごたえを感じておられるようです。

私たち 社会福祉法人いいのやま福祉会は、「パン工房 野の花」を主軸とした、地域に根差した活動を基本として、これからも初心を忘れず、利用者さんがフロントヤード（前線）で活躍し自分の存在を感じられる事業を、展開していきたいと思ひます。



就労移行

農作業による施設外就労について

「ヨイショ、ヨイショ」と、大汗をかきながら、慣れない手つきでニンニクを抜いていく作業から施設外就労が始まりました。それが平成20年の5月ですので、早くも5年目を迎えようとしています。

農作業による施設外就労の目的は、作業賃金の増額や就労機会の確保ですが、野の花としては、一般就労への登竜門として位置づけ、毎年積極的に参加しています。

「暑い」、「寒い」、「風がきつい」、「足場が悪い」、「腰が痛い」等々、作業環境や内容は楽なものではありませんが、今まで就職された方（16名）を見ると、それが本人さんにとっては確実に血となり肉となり、「ここぞという時に踏ん張れる」心と体になっていると思います。

さらには、生産者（農家）の方から仕事ぶりを認められ、頼りにされ、「野の花さんがいないと困る」等々と年々需要が増えていっていることから、働く喜びや達成感も得ることができています。

今後も積極的に参加し、1人でも多くの利用者さんの一般就労に結びつけていきたいと考えています。



就労継続B型

～施設外就労を行いました～

就労継続B型支援事業では、1月と3月に施設外就労（施設以外で、企業や公的機関で行なう作業）を行ないました。

1月は、まんのう町の、県立森林センターの窓ふきの清掃作業です。初めての窓ふき作業だったので、事前に清掃業者の方に指導してもらいました。1月の寒い中でしたが、窓ふきの道具を使って拭いたり、窓の棧をぞうきんで拭いたり、みんながんばっていました。



3月は、高瀬町内の工場で、廃棄うどんを袋から出していく作業をしました。大量のうどんを一日で全部出してしまわなければならず、大変です。職員らが、カッターで袋に切り込みを入れていき、みんなでどんどん出していきました。

どちらも、大変な作業ではありましたが、普段とは違う作業を経験することができ、また体を動かしがんばった分、達成感を得られたのではないかと思います。これからも機会があれば参加していきたいですし、私たちも仕事をいただけるよう努力していきたいです。



接客勉強会



～利用者 K・Sさんの感想～

みんなといらっしやいませをいったり練習をしたりしました。みんなとおそれいりますの練習をしたりしました。そのあとえがおでいったりしました。そのつぎにパンをならべたりパンのふだをおいたりしました。みんなといっしょうけんめいえがおであいさつやていねいなことばづかいでした。

いっしょうけんめいしたのでいいおもいのでできたり、べんきょうになったりしました。みんなと仲よくできていちばんよかったです。

1月21日（月）イオン坂出店の方に来ていただき、接客勉強会を行いました。就労移行、就労継続B型の利用者が参加し、パンの店番や販売において、気をつけること、お客様への態度、あいさつの仕方などを、教えてもらい勉強しました。

～利用者 K・Sさんの感想～

この前は、接客の勉強会に来て接客のしかたとかあいさつのしかたをおしえていただいてありがとうございました。とてもいい勉強になりました。いらっしやいませが言えるように練習しました。ありがとうございますと言えるように練習しました。みんなの前で練習した時は、きんちょうしたけどもう一回言ってみたらうまく言えるようになりました。またこのような機会があったらまた教えてほしいと思いました。



行事

4/5(金)、6(土)

春のパンまつり

4/29(月)

ふじみ園スプリングフェスタ
にバザー参加

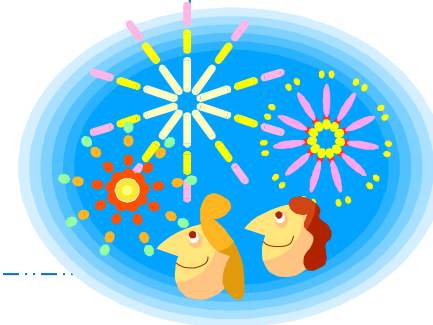
5/11(土) 開所日

6/1(土) 開所日

6月中 一泊旅行

7/6(土) 開所日

7/26(金) 夏まつり



花の配達が終わりました☆

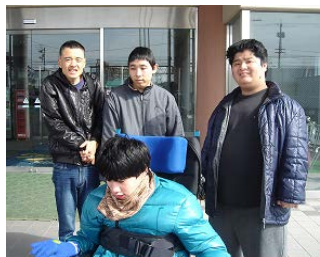
一昨年度から花いっぱいキャンペーンに取り組んでいます。昨年度最後の花の配達が終わりました。

花いっぱいキャンペーンでは1年間で9500円の契約で4回花の寄せ植えを配達させていただきました。

今年度の注文も受け付けておりますので、よろしくお願いいたします。



生活介護



24 年度、最初で最後の行事と言ってもいいでしょうか…2 月にやっとグループ外出に行きました。ボーリングやカラオケ、水族館など。どれも公共機関を使ってのお出かけ。バスに乗ったりコトデンに乗ったりと普段とは違った雰囲気、緊張気味の方や興奮している方いろいろでしたが、地域の人たちにも声をかけてもらいながらの外出になりました。

外に出て感じる事。「人の温かさ」でした。もちろん「冷たい目」を感じることもあります。それでも温かい声をかけてくださる人たちのおかげで、これからも外へ出ていこうという励みになります。昼食を食べに行っても店員さんは笑顔で対応してくれます。本当に心が和みます。施設の中だけでなく外に出ているんな体験をして、美味しいものをたくさん食べて、利用者・職員ともに楽しい時間を過ごせる企画をこれからも考えていこうと思います。



厨房



野の花手作り日替わり弁当

おかずのみ 350 円 ごはん付き 450 円
お店に月間献立表も置いているのでどうぞ。
新しいアイドル加入で、
さらにおいしく仕上がっています。
数に限りがありますので、お早めに！！



パン工房

～春のおすすめパン～

桜もちデニッシュ～粒あん入り ￥130
春らしさを感じれる一品☆





ヨロコビバザール 2013

IN イオン綾川

3月8～10日☆香川県社会就労センター協議会主催のヨロコビバザールでイオン綾川内のブースに出店しました。いつもと違う環境での店番で緊張や不安、お客さんが来てくれてうれしい気持ちなどなど・・・いろいろ感じながらの接客が出来ました。足を運んでいただいたお客様ありがとうございました。

店番以外のメンバーは見学もかねてちゃっかり遊んできました。



ヨロコビワゴンセールが

始まりました☆

野の花は毎週月曜日に店番をします。パン、縫製品を売りますので、皆様のお越しをお待ちしています。いろんな施設の商品（ジャムや焼き菓子など）が出品されています（^_-）☆

ヨロコビ 買うよろこび・助け合うよろこび

ヨロコビワゴンセール

平成25年4月1日(月)10時30分オープン！
10:30～13:30

場所 坂出市役所玄関ロビー

担当施設 月曜日 野の花 水・金曜日 わかたけ

障がい者施設の
商品を買って
嬉しくて楽しい支援を
してみませんか？

「ルーオピニオンコーナー

～職員の考えている事～

「グループホーム（GH）」という言葉は、このところ耳に親しい言葉になりました。一般的には高齢者福祉においてですが、障害をもつ人たちの GH も増えてきつつあります。その二つを比べてみる時、高齢者のそれは、老後と言われる時間をそこで過ごす（それが本人の意思に添っているかどうかは別にして）ものであり、一方、障害を持つ人たちにとって、そこはまさに生活の場となっていることに気づかされます。障害を持つ人たちは GH から職場や施設に通い、様々な支援を得ながらそこで日々を重ねていくのです。

障害者福祉に携わる中で GH の必要性を感じながらも、彼ら彼女らが家族と離れ、又は、家族を作らず、仲間同士で暮らしていくことに、「何かが違う」気がしていました。

しかし、私自身も老いに向かい、身近でも家族の支援だけでは生きていくのに困難な人たちが増えてきました。



ならば、大規模な入所施設よりも、少人数の家庭的な GH があったらいいなと今、考えています。この度の障害者総合支援法により、本体の GH があれば、近くでの一人暮らしも認められそうです。それぞれの当事者の必要に添ったいろいろなサービスも組み合わせ、その人らしい暮らし方を共に考えていきたいものです。

太田 順子



☆☆☆☆☆☆☆☆ ぐ厚志 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆



☆日本財団様より送迎車（セレナ）をいただきました。

☆田所満子様より伊予柑をいただきました。伊予柑ジャムや伊予柑ピールのカップケーキを作って売らせていただきました。

☆千崎様より、縫製の作品づくりに使う布をたくさんいただきました。